

カボチャ栽培 私の場合

札幌市 吉田三郎（七十歳）

今年の春、道新で「シンデレラ夢97」の記事を拝読し興味を持ってジャンボカボチャの種子の送付を受けました。

経過を簡単に説明しますと、四月二十八日に発泡スチロールの箱にエビスカボチャと一緒に一晩水に浸した種子を播種をして、出窓の日当たりの良い所に置きました。その後、発芽して本葉を含めて三枚葉になった頃に幼苗ポットに移植をして外のビニールハウスへ移し、一ヶ月経った五月二十八日に畑に移植をしました。植え付け床は二十五センチの上げ床として馬糞堆肥十キロ、過燐酸石灰二百グラム、加里八十グラム程を赤玉土と混合して植え付けした後、肥料袋（上下を空けたもの）で風除けを兼ねて温度を上げるために支

柱を使つてそのまま一ヶ月位で取り除きました。
途中散水は一回くらい、追肥は一度だけでつる類の切除は行わず
今日に至っております。



自然と共に生きる（？）

北見市 渡部 豊

春にいただいた種は、テキストを読み、ぬれたガーゼに包み、ストーブのそばに置くことから始まって、何とかジャンボ、エビス共四つの苗を作ることができました。専門的な作り方は読んでも分からないので、「まあなればいいわ」程度の軽い気持ちで植えました。堆肥を入れ、土を盛り上げて黒のごみ袋を裂いて広げてかぶせて、いねいに植えました。これまでよりは、それでも気合を入れて植えたのです。いつもなら土は盛らず、マルチもせず、堆肥もほとんど入れず、化学肥料程度ですから。

ところが、ところが、二、三日たって畑に行ってみると、どの苗床もキツネが無残にも掘り返していたのです。ビニールはズタズタ

勿論、苗はあるような無いような。かろうじて何とかかなりそうな苗が二つ残っているばかりでありました。きつと土が盛られ堆肥の匂いがキツネ達を誘惑したのでしよう。

苗が落ちていた場所から一つはジャンボ、もう一つはエビスではなからうかと淡い期待を持って植え直したのです。どうやら二つともエビスだったようで、いつもよりは大きくなつたけれど、顔といつか、肌の色といつか、姿がエビスなのです。誠に残念ながら、私の顔だけがエビスでないのです。

我が家の畑は、人の借り地畑の又借りで、北見の山の手の窮地にあります。ここにはキツネの穴があつて、毎年子づくりが見られます。今年も三匹の子ギツネがいたようです。これらが人間にとって迷惑なことを色々とするわけです。二、三年前には誰かが怒ってトラバサミをかけ、母ギツネが片足を切断するというところもありま

した。

今年は、市にキツネの駆除を依頼したという話を聞いたのですが、幸か不幸か、まだ生き延びております。

今年、私がインゲン豆を採っていたら、つい二メートル程のところに座つてこちらを見ているので「シー」と追つてもあまり逃げる気配を見せません。そこで小さな土の固まりをキツネめがけてアンダーで投げたところ、ねらいたがわず見事に当たったのですが、餌と思つたのか、その匂いをかぐ始末です。誰かに餌でももらつているんでしょうか？のんびり、おつとりした表情で私を見るのです。私自身「まあ、キツネにも生存権ぐらいあるわな」といった気持ちもあり、あまり腹も立てずにいるわけです。

このようなわけで、せつかくの私の期待も「シンデレラ夢」実行委員会の夢もキツネめらが見事打ち砕いてくれました。

どうか、キツネに対する私の気持ちに免じてご勘弁下さい。また
畑が借りられ、いつか機会がありましたら挑戦させて下さい。

(もちろん 写真なし)



異常気象

登別市 大澤浩士

北海道の端から端まで種子を送っていただけ、ここ道南の登別に
て佐呂間の種をコンテスト出品に備えるべく丹精込めて育てまし
が、当地の天候は七月の末より九月に入ってもほとんど雨が
気温も極めて低く、八月に入ってから朝夕ストーブを時々焚い
ていました。こんな年は初めて体験しました。

日照不足と低温のせいでしょうか、出品日が迫ってもカボチャの
生育は悪く、肥料は必要量与えましたが……同封しました写真のご
とく出品には程遠く思います。

何とか大きく育てて佐呂間町へ……と希望を持っていましたので残
念に思いますが、ま、来年こそはと思っております。

私ごとですが、以前に枝幸町にて多少の農業の経験もあります。
またの機会に挑戦させていただきたいと思えます。

